

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390800047		
法人名	有限会社きび薬品		
事業所名	グループホームきのじょう		
所在地	岡山県総社市北溝手55-1		
自己評価作成日	令和 5 年 7 月 15 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、自然に囲まれた場所に立地しており、利用者様にとって落ち着ける環境であると考えています。我々のモットーは高齢者の尊厳であり、職員と利用者が馴れ合いにならぬよう言葉遣いには十分注意しながら関わりを持っています。一日の流れはご自分で決めていただき、自分がやりたいことを自由に出来る空間づくりを目指しています。レクリエーションも強制的には行わず、職員は寄り添いながらアドバイスをしたり一緒に楽しんだり、家族同様のお付き合いを心掛けています。「自分の親、又は自分自身が住んでみたい」と思えるような事業所を目指し、一つ一つの問題点が勉強と思って努力しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390800047-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 9 月 28 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の尊厳を守る事を第一とし、その人がその人らしく穏やかな生活ができる施設である。特に馴れ合いにならぬよう職員は言葉遣いに気を配り、臨機応変にその場にあった柔軟な対応をして努めている。日中は施設の周りを職員と散歩を楽しみ、開放的な空気の中で、思い出や今の思いなど語れるコミュニケーションの時間となっていて、職員が利用者からの些細な事にも耳を傾け、寄り添ったケアをしていた。お祭りの時期にはこども神輿などのふれあい行事があり、施設内でも、お正月には職員が神様に扮し初詣に代わるイベントを企画している。コロナ禍で外出がままならない状況下でも、利用者が楽しく過ごせるよう、リビングでは、パズル、塗り絵、テレビを観るなど寛いでいる様子が見られ、食事の際には野菜の下ごしらえを手伝うなど、まさに我が家そのものであった。新人職員には指導担当の職員が付き、明るい雰囲気での介護現場となるよう導いている。管理者はできるだけ職員の意見に耳を傾けるように努めているが、全てに関り、マネージメントも考慮するとなかなか厳しいなか、現在を築いてきた。施設がより良い方向へ、利用者の幸せとはを常に考え、職員みんなで思考錯誤している姿が印象的であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人がその人らしく、穏やかな生活が出来るよう、常にご本人やご家族の立場に立って支援するよう心掛けている	職員・利用者ともに、みんなが幸せになるためにどうすればよいかを、管理者は常に考え、職員にも問いかけている。常に進化する体制づくり、組織づくりに努め、管理者は職員が公平になるようにしており、ひいては利用者の立場に立った、寄り添った介護に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の年間行事への参加や、地域代表の方との普段のお付き合いを心掛けている。又、ご近所様から季節の野菜などを頂戴したりしながら、職員・入居者共々交流を大切にしている	散歩の際には挨拶を交わす関係ができています。代々の地域代表の方との交流をコロナ禍でも大切にしていこう姿勢がみられる。施設の駐車場を地域に貸し出したこともある。正月のお飾りを地域の方と一緒に作成したり、秋祭りにはこども神輿が近くに来て、交流できていた。	コロナ収束後に向け、更に地域交流を深めるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者とスタッフによる地域行事への参加や、自由に施設見学ができる体制により、開かれた事業所づくりを目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表の方やご家族、他事業所スタッフや地域包括支援センター等の意見や感想を取り入れ、サービス向上に努めている	運営推進会議は対面で行っている。代表、管理者、家族の方、福祉委員、市役所の方の参加で行い、利用者の近況報告、身体的拘束適正化委員会、コロナ感染や熱中症対策について話し合った。ホワイトボードに、行事の際の写真を貼って利用者の様子を知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者(ご家族)及び職員皆が幸せになれるよう、心あるサービスを提供するために、弱者の立場に立った問題点について相談解決出来るよう努めている	窓口は管理者となっている。利用者の立場で問題を解決して安心できるように、管理者は相談や質問をする真摯な姿がみられる。市町村担当者も、質問に対して正確に回答するために頻りに連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会の定期開催に加え、新入社員に対する入社時研修並びに既存社員に対する年2回の研修会を通し、事業所内での意識向上に努めている。	身体拘束委員会の際には、ネットからの研修資料や、事例を取り上げて、意見交換をしている。スピーチロックに関しては、その場で看護師や管理者が注意できる関係ができています。声のトーンやフォローする言葉を付け加えることで、利用者の尊厳を傷つけない工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	更衣時や入浴時等、体の異変を発見した場合には漏れなく報告するシステムを作っており、管理者と現場スタッフがその原因を追及することにより、不適切な対応が無かったか確認するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて各関係機関との連絡を密にとり、ご本人にとって何が最善であるかについて、複数の関係者による判断を心掛けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に入居前の説明には時間を割いており、解約や制度改定時においても可能な限り自宅訪問(来所もあるが、ご家族によっては郵送する場合もある)し、懇切丁寧な説明を心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の入居者の様子について、積極的にご家族へ電話連絡する事を心掛けており、いつでも誰でも何でも気軽に意見や要望を聞き入れる機会を設けている	家族には密に連絡を取っていて、体調変化や施設の状況を細かく伝えるようにしている。介護プラン作成前には、家族の意見を必ず聞いている。家族からの要望を拾い上げるために接客チェックシートを作成し、職員全員で情報共有が出来ている。メールでのやり取りをする家族もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットリーダーには、週に一度の業務週報提出を義務付けており、現場の問題点等に関する意見や提案が言える機会を設けている。又、それらについてその都度回答している	ユニットリーダーが作成する週報からの情報や、管理者やユニットリーダーにその場で相談できる環境が整っている。職員からも、即座に上司が対応してくれているとの声があった。ADLの維持のために、居室の家具の配置や、食事形態など、職員から利用者に寄り添った意見があり、できる限り対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2度の人事評価制度を導入しており、個々の努力によって給与に反映する仕組みや、休暇の在り方など職員がリフレッシュできる仕組み作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な職員に対しては、必要な時期に必要な研修を受講できるよう配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて関連事業所との合同研修会を実施するなど、職員同士が交流できる場を作るよう努めている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言うまでもなく、基本中の基本である。問題定義さえ出来れば、答えは自然と見つかるものと考えて日々取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	言うまでもなく、基本中の基本である。問題定義さえ出来れば、答えは自然と見つかるものと考えて日々取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	言うまでもなく、基本中の基本である。問題定義さえ出来れば、答えは自然と見つかるものと考えて日々取り組んでいる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「お世話」ではなく「寄り添う」という気持ちを忘れないよう取り組んでいる。又、お互いが「有難う」と言える関係を構築するよう心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の生活支援方法については、常にご家族と相談しながら共に答えを探し出すよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り知人の面会をご家族にも要望している。又、定期的に自宅への外出及び外泊なども合わせてお願いしている	面会は玄関で対面式で行っていて、短時間の予約制、二人までとしている。また、1週間に1回までの制限を設け、コロナ感染予防に努めている。冠婚葬祭では、家族とともに過ごせるようにしている。春・秋は遠足に出掛けたり、近隣のコンビニで買い物をしたりして馴染みの場所へ行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人合わない人、我々健常者でも困難なことではあるが、可能な限り性格などを考慮した上で協調性を持って生活出来るよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される場合であっても、今後(病院や他施設、又は自宅)についていつでも相談に応じる旨を伝え、実際に退居後の相談に応じているケースもある		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ご本人が何を望んでおられるのか、日々の言動や行動を観察し、過ごしやすくなるよう配慮している	散歩時や入浴の際には、ゆっくりと話を聞くことができている。家族と会えないという利用者には、家族に連絡をして、面会やプレゼントをお願いすることもある。発語が困難な方には、表情や今までの傾向を、職員が汲み取って対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご自宅へ出向いて生活空間を拝見したり、過去の職業や人間関係等を参考に入居後の生活支援に役立てている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に一日の経過記録を作成し、主な出来事(面会や外出の有無、レクリエーションや機能訓練等の内容など)について全ての勤務者が把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の希望と実際のご本人の日々の生活の様子を照らし合わせ、問題点を発見することによって現状に即した介護計画が作成出来ている	介護計画は入居時に暫定プランを立て、1ヶ月、6ヶ月毎に見直しをしている。身体レベルに変化があった場合には、その都度、対応している。ケアマネージャーを中心に、職員の意見、医師のアドバイスを、家族の要望も介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に一日の経過記録を作成し、情報の共有を行っている。又、その中からの気付いた問題点等については、今後の介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「臨機応変」をモットーに生活支援しているため、型にはめられたサービスではなく、常にその場に合った柔軟な対応が出来るよう工夫している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(お祭り他)に参加可能なレベルの入居者については、積極的に社会参加を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の選択(普段のかかりつけ医及び入院時)については、入居時にご家族に対して懇切丁寧に説明し、ご家族の納得がいくよう心掛けている。又、体調管理については普段からご家族と連絡を密にしている	かかりつけ医に全員が転医している。月1回、訪問歯科があり、口腔指導を受けている。他科へは家族に付き添って頂き、報告を受けている。看護師とは24時間連絡体制が整っているため、緊急時の対応でも安心できる。家族からは、体調に関する問い合わせがあり、看護師が丁寧に説明することで、安心できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調については、「いつもと何かが違う」という気づきを大切にできるよう徹底しており、異変が生じた場合には24時間看護師と連絡を取り合い、適切な処置を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関を中心に、普段からコミュニケーション作りを心掛けており、入居者が入院となった場合でも何でも相談できる関係を構築できるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年月が経つとレベルも変わることが常にご家族には伝えており、実際に重度化(又はその予兆)となった場合であっても、当事業所としての役割を懇切丁寧に説明するよう心掛けている	入居時に重要事項説明書にて説明し、重度化した場合には、'重度化した場合における対応にかかわる指針'に基づき再度家族に確認している。連携医や看護師のアドバイスの下で、家族と話をしている。ユニットリーダー作成の週報や申し送りノートにて、職員は情報共有ができており、利用者が安心できる体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段の生活の中で起こりうる事故や急変時の対応方法について、看護師を中心に定期的に研修を行っている。又、消防署員による心肺蘇生法を受けるなど努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が中心となり、年2回の防災訓練を実施しており、地域代表の方を通して地域の方々にも協力をお願いをしている。又、消防の方を招いて講習等を行うよう努めている	年2回の訓練は昼夜想定で行い、利用者も参加している。BCPの策定に取り組んでおり、シミュレーションを行い、災害時に備えている。避難場所は近くの大学になっている。消防署の指導の下、心肺蘇生や消火器の使い方などの講習会を行った。	備蓄について更に検討実施されることを期待します。
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「高齢者への尊厳」については、当事業所として一番大切にしているところであり、言葉の選択や声の質及びトーンについても、時と場所を選んで使い分けるよう努めている	苗字に「さん」付けで呼んでいる。排泄失敗時には、さりげなく声掛けをして、誘導している。利用者の尊厳を大切にするように、言葉遣いや声のトーンに注意して接するよう努めている。ユニットリーダーや管理者が普段から職員に言葉遣いや何か問題がある場合には、注意する関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的には食事の時間以外は自由に自己決定できるよう支援している。但し、共同生活であるため、他者に対して迷惑行為となる内容であればご本人に相談するよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の24時間と職員の24時間は異なるということを職員に徹底し、急ぐことなくご本人のペースに合わせた支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分によって衣類を選択できるよう配慮したり、女性の方にはお化粧をする機会を設けるなど工夫している。又、原則として起床時と就寝時には更衣して頂き、個々の身だしなみに注意している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の作成時、入居者の希望も反映できるよう心掛けている。又、お手伝いが可能な方については、簡単な準備や配膳・下膳及び食器洗い等をお願いしている	三食手作りで、メニューも職員が考えていて、残食はほとんどない。春には屋台風にして、ラーメンやサンドイッチなどを提供し、利用者はお祭り気分を楽しむことができた。誕生日には利用者の希望を聞いて、バラ寿司や赤飯を提供している。野菜の下ごしらえを手伝ってくれる利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量(主食・副食・水分量)を記録に残し、異変の早期発見に努めている。又、病気(糖尿病等)による摂取制限等についても、医師や看護師の指示を受けて実践している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯又は義歯によって口腔ケア方法も異なるため、個々の支援方法を一覧にして徹底している。又、義歯については定期的な洗浄(洗浄剤使用)を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	原則として日中は共用トイレまで往復するよう心掛けている。又、入居者によっては定期的な声掛けにより、自発的な排泄の実践に努めている	利用者に少しでも快適に過ごしてもらえるように、安眠のために各種衛生品を試したり、衛生品のメーカーによる勉強会をしたこともある。排泄チェックシートを活用して、利用者のパターンを把握して声掛けをし、自立して排泄できる出来るようにケアをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性的な便秘の方については、常に医師と相談しながら飲食物や一定量の運動を取り入れるよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理矢理とならぬよう、入浴希望の有無については、必ずご本人に確認して行っている。又、拒否が強い場合には清拭等に切り替えるなど工夫している	入浴は週2～3回。浴槽に入れるのは約半数で、シャワー浴や清拭にて、清潔を保つようにしている。嫌がる利用者には、言葉掛けを変えたり、職員や時間を変えたりして、無理強いはしないようにしている。保湿に気をつけてケアしている。利用者に合わせて、水位を変えることで安全面に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間、又は昼寝に至るまで、ご本人の体調に応じて職員が誘導している。又、ご本人の生活リズムを崩さぬよう配慮しながら管理している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携しながら看護師が中心となって管理している。又、ローテーション勤務であっても全ての職員が把握できるようチェック体制を設けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動は、強制的にならぬようご本人の意思を尊重して取り組んでいる。又、個別に合った楽しみごとを探し出すよう日々努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内に閉じこもらないよう、戸外への散歩は日常的に取り入れている。又、食材の買い出し時には、可能な限り入居者と同行するよう努めている	散歩は週数回行い、近隣の方と挨拶を交わす関係ができています。秋には、産直販売所へドライブに行く予定。秋祭りの時に、こども神輿が近くを通り、盛り上がった。外出に代わるレクリエーション活動にも力を入れ、百歳体操、合唱、玉入れ、職員が手作りの季節の言葉合わせ等をして、利用者の気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所に一括管理しているが、希望に応じて一定のお小遣いをご本人が所持することにも配慮している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節に応じた手紙については、職員と一緒に作成するなど取り組んでいる。又、電話に関しては帰宅願望に配慮しながら、可能な限りご本人やご家族の希望を優先するよう努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての空間について、可能な限り自然体を大切に心掛けている。又、季節に応じた飾り付けなど、居心地のよい空間となるよう工夫している	壁には季節を感じる、ちぎり絵や、折り紙で作った作品が飾られ、笑顔の利用者の写真も貼られていた。リビングでは編み物や、脳トレ、新聞を読んだりして寛ぐ姿や、ムーヴサイクルをしてリハビリをする方もいる。日当たりが良く、のどかな田園風景の中、ミニ畑でトマトやナスなどを作って額に汗を浮かべていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一か所集中ではなく、複数の居場所に複数の小集団が形成されることをイメージした空間となっており、気分によって居場所が変えられるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の家庭訪問にて、ご本人の馴染みの備品及び物品についてご家族に確認し、入居時には可能な限り持ち込んで頂くよう配慮している	備え付けはベッド、エアコン、換気扇、カーテン、照明、クローゼット。仏壇や遺影を持ち込んで手を合わせる利用者がいる。家族の写真や、手紙を大切にしている方もいる。利用者の安全を配慮した家具の配置となっている。毎朝、職員と楽しく会話をしながら清掃を行っているので、清潔な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常的に頻繁に使用する場所については、入居者独りでも安全に使用できるよう配慮している。又、日々の業務においてリスク管理(危険度のチェック)を徹底している		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない